

第1回 ゑふメディアコスモス分館整備検討部会 会議録概要

日 時：令和8年7月13日（月） 午後3時00分 ～ 午後5時00分

場 所：ハートフルスクエアG 2階 大研修室

出席者：部会員

（敬称略）高橋 綾子、出村 嘉史、川島 政樹

アドバイザー

宮田 裕章（オンライン出席）

傍聴者：4人

会議概要：

1 開会

2 あいさつ

ぎふ魅力づくり推進部長からあいさつ

3 部会長及び副部会長の選出

部会員の互選により、部会長に高橋部会員、副部会長に出村部会員が選出

4 ハートフルスクエアG 視察

ハートフルスクエアG を視察

5 アドバイザー紹介

宮田アドバイザーの紹介

6 議事

6-1 ゑふメディアコスモス分館整備の概要

事務局が資料1-1及び資料1-2について説明・質疑なし

6-2 分館の整備を取り巻く環境

事務局が資料2及び資料3について説明・質疑なし

6-3 分館のコンセプト及び求められる機能

事務局が資料4について説明

<部会員意見>

- ・機能からどのような体験を開くかという視点があるとより良いのではないかな。
- ・ぎふメディアコスモスが岐阜のさまざまな可能性をより深く受け取る場所であるならば、駅前にできる分館は「みんなの窓」のような場所になるのではないかな。
- ・図書館でいえば、単なる相談窓口だけではなく、仲間につなぐ「アクションデスク」のような機能があるとよい。市民活動や講座、仕事の紹介についても同様になるとよい。
- ・市民、学生、企業、行政がアイデアを数週間単位で試す「未来ラボ」のような機能があるとよい。
- ・音楽、パソコン、クラフト室などが縦割りになるのではなく、生成 AI も含めてマルチモーダルに横断し、まちの課題をキュレーションしたり発信したりできるとよい。
- ・若者だけ女性だけというように対象を絞るより、多種多様な人がいることを前提に横断することが肝要だと思う。
- ・Neo work-Gifu やクラフト室の機能はいずれも何かを生み出す作業である。仕事を生み出そうとする人、コンセプトにあるものを形にしてみようとする人にとっての場所だけではなく、不登校の子どもが自分の力を確認し、創造の喜びを体験する場所にもなり得るのではないかな。
- ・現在の空間は隔壁が強く、体育ルームにいる人と図書館にいる人が互いの存在を感じにくい。外界をシャットアウトするのではなく、むしろ外が見え、出会ってしまうようなものを作った方がよいと思う。
- ・ハートフルスクエアーG にある機能は、ほとんどが市内の他の施設にある機能であるため、横断的という意味では、他の施設との連携を十分に取る必要があると思うし、横断的に取り組む価値や合理性があるものが選ばれる必要があると思う。
- ・岐阜駅に設置する施設である以上、駅に置く必然性があるものが必要だと思う。岐阜駅は1日6万人近い乗降客がある好立地であり、これだけの潜在的な利用者に対して、しっかりアプローチできるのかを考える必要がある。
- ・スタートアップ支援を例にすると、近隣にも民間のコワーキングスペースがある中で、行政として、駅前の好立地でやる必要性があるのか、なぜ、現在の場所では駄目なのか、民間との機能の重複についてはどう考えるのかなど、丁寧に精査していく必要があると感じる。
- ・駅でなければならない機能、駅という通過点となっている特徴を積極的にコンセプトに入れることが重要であり、劇場や美術館を作るという検討ではなく、駅の中にある施設がどういう特色を持つかという方向で考える必要がある。
- ・未来ラボ的な場所は、完成形を披露する場所というより、アイデアを試し、その途中経過を見せ、実験やワークショップを行うような場所になると思う。
- ・「立ち寄ってみて、知って、話して、作って、試して、まちへ出る」という流れが、この施設にあるとよい。「みる」というのは、今の岐阜で何が行われているのか、長良川や自然だけでなく、イベントやチャレンジがどう見えるかということ。「知る」というのは、図書館やメディアコスモスと連動すること。「話して」みるというのは、若者、起業、就労相談、多文化交流など、多様なチャンネルで相談すること。「作って」「試して」みるとは、未来ラボのように作ったり試したりするアプローチにより、クラフト、映像、サービス、イベントの挑戦につなげていくこと。それらをまちへ出し、まちへ開いていくことで、挑戦した結果がギャラリーの中で戻ってくると、岐阜の中に多様な入口ができ、まちへつながっていくと良いと思う。

- ・新しい機能を一から作るというより、今ある図書館、パソコン、クラフト室、ギャラリー、ワークダイバーシティ、資料室、休憩機能を再編集し、体験を再設計することが重要である。
- ・平和資料室については、岐阜の考える未来のコンセプトを、いくつかの視点からキュレーションすると伝わりやすいと思う。その中で、平和を受け継いだレガシーとして、今日的な視点で再解釈していくと良いと思う。
- ・ただ施設をつくるだけではなく、「横断的」であり「みんなの窓」になるような施設を作っていく過程が重要であり、これからそのプロセスを市民に開きながら進められるかどうか肝となると思う。できたものを教えるのではなく、柔軟な段階からステークホルダーと一緒に作るプロセスが取れるかが重要である。
- ・施設を見学して、照明が暗いところや、空調の効き方に課題があると感じた。居心地のよい施設と考えると、ファシリティの運用面も検討していく必要がある。
- ・メディアコスモスは、建物や環境設計の素晴らしさが大きな力になっている。このリニューアルでも、空調、LED化、維持管理手法などを含め、どう議論しどう対応していくのが大事だと思う。
- ・今日の提案は、どういう機能が欲しいかを丁寧にヒアリングし、それを建築要件として整理したものだと思う。これからは、それを満たしつつ、横断的な体験としてどうつないでいくかが重要だと思う。機能を箱としてそのまま置くのではなく、それをつなぐ場としてどう設計するかが大切である。使うときの体験設計や人をつなぐためのインフラも含めて考える必要がある。ピースをそのまま置くのではなく、ピースをつなぎながら場をつくることができると、素敵な場所になると思う。
- ・名古屋に行くための便利な駅だけではなく、岐阜に開く場であり、多様なものを受け止められる場になるとよいと思う。何も想定せずに作るのではなく、自分たちで問いを立て、その問いを受け止めきれんかどうかを考えることが大切だと思う。
- ・ハートフルカフェについて、今ある形は変えた方がよいと思うが、お茶を飲む空間はあっても良いと思う。
- ・Neo work-Gifuで行われているセミナーや相談会が、閉ざされた場所で行われるのはもったいないと常々思っている。他の機能と融合する形で入るのであれば、非常に前向きな話だと思う。ただ部屋を与えるだけでは機能を発揮しないと思うので、いろいろなものをそぎ落として、コアの部分を出して、例えば、相談機能のように、他と融合する形になるとよいのではないかと思う。そうでなければ、面積を取り合って邪魔になってしまうので、それは避けたい。
- ・このままNeo work-Gifuの機能をゴッソリ移転するのは、現状の空間の保有率の関係で課題があるし、利用料金、会員制の仕組みも議論していく必要があると思う。少なくとも、メディアコスモス分館のコンセプトにフィットし、今日出たキーワードにしっかり位置づく形でお願いしたい。
- ・働く人にとっても心地よいリノベーションであってほしい。利用者目線で、おしゃれになったらよいという話だけではなく、ここで働く人目線で、よりよい仕事ができる職場となることは大事だと思うし、事務室だけが狭くなって、働く人が困るようなことは避けてほしい。
- ・箱ができたから使うというより、オープン後もまだ作り込んでいけるような状態で、人とともに育つ空間になればよいと思う。

- ・メディコスは建築として素晴らしく、建物の環境設計の力もあり、人が集う場所になっているため、そのノウハウを使い、建築とデザインの力で人が集まるところにしようとしている着眼は、その通りだと思う。
- ・不登校やひきこもりの問題は大きな社会課題である。メディアコスモスは、学校に行けない子どもたちの居場所を提供していると理解しているが、今回の施設にも、不登校の子どもや、義務教育以降のひきこもりやひきこもり傾向の方が、ここに寄ることで社会参画の糸口をつくれるような機能を期待している。
- ・サードプレイスとして、子どもたちや若者を対象とした社会包摂的な観点は必要だと思う。一方で、今日施設を見学して、高齢の方が親しんで使っている様子も見て、リニューアル後に、その方々が自分の行く場所がなくなってしまうと感じないようにする必要があると思う。高齢の方が子どもたちや若者と一緒に交流できる、本当の意味で横断的な空間になってほしいと思う。
- ・ひきこもりの話は、主に若者の例を出したが、高齢者、特に単身の高齢者や高齢夫婦の社会との隔絶も大きな問題である。高齢者を対象にしたサロンのように、高齢者の孤独や隔絶を防ぐため、居場所を提供するという広い意味で、この施設にもその役割を期待したい。
- ・プロセスにおいていろいろな人の意見を聞くというのは、要望を聞くという意味ではないと思う。ハードのデザインはプロフェッショナルが行うことを前提にしつつ、その中でどういうことができるかを一緒に想像し、プロセスを開示し、共有しながら進めることが、市民的な社会をつくる上で重要だと思う。
- ・前向きにメッセージを発信し、一緒に仲間を作り、スタートしたときにはもう使い方が分かっている状態が望ましいと思う。
- ・ファッションライブラリーは廃止検討の中に入っているが、解釈がいろいろあっていいと思う。ソフトを廃止するというのではなく、空間的な見直しとして理解しており、本体メディアコスモスなどの図書館機能の中に、コーナーとして融合させることも考えられる
- ・和室については、近隣でも、例えば、文化センターにあることも考えると、こちらの和室が別の活用ができるのであれば、違う形にしてもよいのではないかなと思う。
- ・施設管理側にいると、コストの問題で、デザイナーや企画側の提案を削ってしまいがちである。メディコスで自分が学んだのは、デザインのソフトパワーである。今回もその価値を評価し、後押しすることが、この会の役割の一つではないかなと思う。
- ・横断を実現する空間は、基本的には開放的につくることが重要だと思う。ただ、実際にはいろいろな都合で閉じなければならない場所が出てくる。その中で、安易に閉じるのではなく、どこまで開放性を保てるかが重要だと思う。
- ・通路に展示されている絵や、キュービクギャラリーのあり方も気になった。通過するだけの空間では、人はあまりしっかり見ないため、美術に限らず、通路のような空間だったところが、たたずみながら、自分のお気に入りの隅を見つけられるような空間に生まれ変わることを期待したい。

7 閉会

事務連絡（次回の会議は10月頃を予定）